相手の立場に立って考えること

(原文)

黒岩 歩未 (13 歳)

東京都

東京都立大泉高等学校附属中学校

私は若者が率先して未来の日本を一緒に創っていくには、自分と意見が対立している人がいたとしても相手の立場を考えたうえで、相手に届く言葉を使って自分の意見を伝えることが大切だと思います。

先日の道徳で「野生の猛禽を守るために」という文章を読みました。この文章は個人的に私の心にとでも残っていて、特に「相手に届く言葉で意見を伝える」というところに感動しました。

その文章は獣医をしている筆者が実際に体験したことをもとに書かれていて、鉛の弾丸によってハンターに狩られた鹿などの肉を鷹が鉛と一緒に体内に入れてしまい、鉛中毒で死んでしまう事例に立ち向かったときのものでした。普通、ハンターたちに意見を言うなら、猟をすることや、鉛の弾丸を使うことに対しての否定的な言葉が出てしまうと思いました。しかし、筆者はハンターの人たちに対して「鉛の弾丸は使わないでほしい」や「猟をしないでほしい」という言葉をかけたりはしませんでした。なぜなら猟は当時、禁止されていることではなかったことや、増えすぎてしまった鹿から住民の暮らしを守るためだという人もいたからです。もし、私がこの文章のハンターと同じ立場だったら、禁止されてもいないのにどうして猟をやめなければならないのか、と筆者に対して反感を抱くと思います。

そんな中、筆者は「鉛の弾丸から銅の弾丸に変えませんか」と訴え続けました。これは猟をやめることなく、鷹への被害も出さない提案でした。結果的にその思いが理解されて北海道で鉛の弾丸を使った猟は禁止されたというお話でした。

私はこのお話を読んだときに、相手が立っている立場を考えて、どのような言葉をかければよいのかを考えて行動した筆者に対して感動しました。

以前、私が小学 5 年生ぐらいだった時、新型コロナウイルスが流行し始めました。今となっては、マスクを取っている人も街中ではよく見かけるようになりましたが、当初は多くの人がコロナを警戒し、夏でも屋外でもマスクをつけて過ごすのが当たり前でした。私の通っていた小学校も例外ではなく、全員が常時マスクをしていました。そんなときに、私のクラスに休み時間中や休み時間の後のしばらくの間、マスクを取っている男子がいました。彼には持病があったわけでもなく、ただ自分の意志でマスクを取っていました。そのため、当時同じクラスだった多くの子が彼に対して「マスクをして」と言いました。私自身も彼に直接言ったことがありました。しかし、いくら私たちが彼に注意をしてもマ

マスクを着けようとしないので、ついには先生沙汰にまで発展しました。先生からの指導があった日の帰りの会の時間に彼が全員の前に立って、「こんなご時世で不快な思いをする人がいることも考えないで勝手にマスクを取ってしまっでごめんなさい。でも休み時間の後はどうしても暑くて取りたくなくて取ってしまうので、少しの間だけ見逃してください。お願いします」といっていました。私は彼の行動に驚くと共に、納得することができました。それ以降、彼に「マスクをつけて」という人は一人もいませんでした。私は彼が素直に自分の気持ちを伝えたからこそ、全員に思いが届いたのだと思い返しました。

現代ではインターネットの普及によって、ネット上に自分の意見を、正体を明かさずに載せることができるようになってきました。その一方で相手の事情も知らずに情報を鵜呑みにすることで誹謗中傷が増え、自殺してしまう人もいます。きれいごと聞こえるかもしれませんが、やはり自分の意見は相手の立場を理解したうえで、相手に届く言葉で伝えることが大切だと思います。